

令和7年度 第2回宮城県地域共生社会推進会議

基調講演：

地域共創とは - 地域共生社会の実現に向けて -



Linking  Design

宮城大学地域資源マネジメント研究室

<https://linkingdesign.jp/>

講演概要

■ プロフィール

- ・地域共創型実践教育

■ 用語の確認

- ・協働、共創、共生

■ 政策の全体像

- ・全体イメージ、地域共生社会、地域循環共生圏

■ 実践・地域学の紹介

- ・基本となるフレーム

PROFILE



宮城大学 事業構想学群 教授
地域創生学類 学類長
研究推進・地域未来共創センター 副センター長

佐々木 秀之

学 位：博士（経済学）、経営管理修士（MBA）
専門分野：地域経済学、日本経済史、ソーシャルビジネス
所属学会：日本計画行政学会、日本マーケティング学会、
日本建築学会等

略歴

1974年仙台市生まれ。岩手大学農学部卒業後、商社勤務等を経て、東北学院大学大学院経済学研究科へ社会人入学。2011年3月修了、博士（経済学）。東日本大震災の復興過程では、起業家支援・復興まちづくり計画の策定等に従事。2016年より現職。

TOPIX 日本農福連携学会 設立（2025年12月）



開催予定 2025年12月14日（日）

「日本農福連携学会」設立へ！千葉大学松戸キャンパス
で設立記念シンポジウム、ハイブリッド開催！12月14
日

地域創生学類

2017年創設



Creating Sustainable Communities.

頻発する災害や人口減少など、地域におけるさまざまな課題をいかに解決していくか
多様化する社会や価値観の中で、あらゆる地域課題の解決に向けた事業創造や政策立案、
それらの根拠となる科学的分析手法を学び、社会に貢献することができる人材を育てる

「新しい地域学」デジタル技術を活用し、地域課題の解決を目指す

SDGsとして示される経済と社会、環境の調和、この実現は可能なのであろうか。持続可能な開発に関して、ローマクラブが『成長の限界』を著したのは1992年のことであった。半世紀が過ぎ、その解決策は未だ模索の途上にある。地域創生学類では、以下の3系からなるアプローチで、こうした持続可能性の問題に、実践的に取り組んでいく。3系とは、「地域アントレプレナー系」、「地域

政策・公共系」、「地域環境・計画系」である。加えて、最近では、デジタル技術の活用にも積極的に取り組み、フィールドリサーチを進めている。各種技術をもとにした事業企画の立案も進めており、企業や自治体との連携による課題解決プロジェクトも活発化してきた。このような、地域創生学類が目指す「新しい地域学」の扉を共に開いていきましょう。



地域創生学類 学類長
佐々木秀之 教授

宮城大学「地域フィールドワーク」@ 2025 蔵王町



宮城大学「地域フィールドワーク」@ 2025 蔵王町



宮城大学「地域フィールドワーク」@ 2025 白石市



宮城大学「地域フィールドワーク」@ 2025 白石市



兵庫県立大学



→広域にわたる専門力の育成

近年の社会課題に目を向けると、一つの分野だけでは解決することが難しいような、複雑な問題が数多くあることに気づきます。そして、そのような課題を解決していくためには、知的関心を広げ、複数の分野を横断的に学んでいく必要があります。

兵庫県立大学では、3つのプログラムを副専攻として設けています。



この3つの副専攻の中で、兵庫県やまちづくりに興味のある人材を募集しているのが「地域創生人材教育プログラム（以下RREP）」です。



・西脇市の連携事例



「ひょうご地域課題概論」にて講義（西脇市長および澤田氏）

・姫路市との連携事例



「地方公共団体の行政を学ぶ」にて講義（姫路市長）



「ひょうご地域課題概論」にて講義

・JA共済連兵庫との連携事例



寄付金受贈式

宮城大学地域連携実践教育プログラム
【全学群・研究科対象/フィールドワーク系科目】
地域フィールドワーク / コミュニティ・プランナープログラム
宮城大学では、地域の歴史・文化・資源を活かした
コミュニケーション力や、地域の人々とともに
課題解決ができる人材（コミュニケーション・プランナー）の育成を目指す
教育プログラムを学生と大学院生がそれぞれ実施しています。
地域コミュニケーションの視点から、自ら目で見て・聞いて・体験し、
学習することで、地域の人々とともに考えながら、
地域本来の良さを活かした、これからにコミュニケーションづくりの
実践手法を学びます。

地域の再生・発展には、人と人のつながりが大切。
だからこそ求められる、コミュニケーションの未来を創造する力。

▶ コミュニティ・プランナー / CP プログラム

現在、公的機関のまちづくり課、総務や農林、商工や農業など、あらゆる府において、地元住民の声を持った人材が求められています。
本プログラムにおけるコミュニケーション・プランナーは、地域に抱える多様な課題の解決や、地域が抱える多様なコミュニケーションづくりに貢献できる人材を目指します。

このプログラムは、地域の再生・発展をめざすために、園芸・農業・畜産などの日本本
業から、地域に取り組んできた仙台農大と宮城県立大が連携し、被
災地にて立ち下る公立大学としての協力を生かしたプログラムを開催
しています。

▶ 単位について

学群プログラム

基礎教育科目の「地域フィールドワーク」1単科1単位、CP必修の「CP概論
および演習」「CPフィールドワーク実習」1CP「フィールド
ワーク演習」の4単科1単位。各学部専門科目である「CP実践科目」の
うち2単科以上から4単科13単科以上を履修します。合計30単科以上を
履修することで卒業に必要な「コミュニケーション」の単位および認定が得られます。

▶ 大学院プログラム

事業実習型の修士課程の前段階において開講している「CP特別演習」、
「CPプロジェクト研究」の2科目4単科を履修することで、修士時に「コミュニケーション」
の単位および認定が得られます。

宮城大学
出典: 宮城大学



東北・宮城の 生きる力をつむいで、 地域とともに歩む。

宮城大学では、地域の歴史・文化・資源を活かした
コミュニケーション力や、地域の人々とともに
課題解決ができる人材（コミュニケーション・プランナー）の育成を目指す
教育プログラムを学生と大学院生がそれぞれ実施しています。

地域コミュニケーションの視点から、自ら目で見て・聞いて・体験し、
学習することで、地域の人々とともに考えながら、
地域本来の良さを活かした、これからにコミュニケーションづくりの
実践手法を学びます。

学びの特徴



地域社会の
視点での
学び
専門家
視点での
学び

地域のステークホルダーと連携した
フィールドワーク

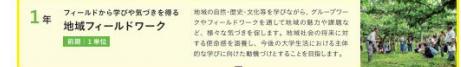
本プログラムでは、第一線で活躍する専門家とともに、
自治体や企業・NPO等の地域社会のステークホルダーと
連携したフィールドワークを取入れることで、より社会
に貢献できる実践的な能力を養成します。

GREENの視点

持続可能なステークホルダーとの連携によって、持
続可能な社会をめざす活動を行います。また、地域、
全ての生きものとの共生をめざす活動を行います。
この生きる、すべての生きのいのうのなかで、開拓され持
続するものを「GREEN」として、本プログラムにおける新視点として
設定しています。

学群プログラム・カリキュラム概要

基礎教育科目【全学必修科目】



CP科目【選択科目】



トッピングナーチャラ学習を軸とする CP実践論



3年間



コミュニケーション・プランナー アソシエイト

【准拠科目】



大学院プログラム・カリキュラム概要

CP科目【選択科目】



効率的なプロジェクトの構造と推進

CPプロジェクト研究【准拠科目】

地域でプロジェクトに対する理解を深める CP実践科目

グリーンケイ

人間形成論 / 人間心理学 / 露宿心理学

災害復興論 / ライフスタイルセミナー選択科目Ⅰ・Ⅱ

地域連携実践講座 / 高齢者生活 / 安全衛生科学

グリーンデザイン

計画・環境計画 / 地域活性化とビジネス / 地域企画論

新規開拓 / 畜産・農業・防災・デザイン / 安全衛生工学

社会問題研究 / 災害復興と地域活性化

ワーキングデザイン / 食品マーケティング基礎

ローカルフードシステム論 / 食料・農業・農村政策

森林保全・利用論

グリーンビジネス

社会貢献論 / 地域活性化とビジネス / 地域企画論

社会問題研究 / 災害復興と地域活性化

ワーキングデザイン / 食品マーケティング基礎

ローカルフードシステム論 / 食料・農業・農村政策

森林保全・利用論

グリーンアート

芸術表現論 / 地域活性化とビジネス / 地域企画論

新規開拓 / 畜産・農業・防災・デザイン / 安全衛生工学

社会問題研究 / 災害復興と地域活性化

ワーキングデザイン / 食品マーケティング基礎

ローカルフードシステム論 / 食料・農業・農村政策

森林保全・利用論

グリーンアート

芸術表現論 / 地域活性化とビジネス / 地域企画論

新規開拓 / 畜産・農業・防災・デザイン / 安全衛生工学

社会問題研究 / 災害復興と地域活性化

ワーキングデザイン / 食品マーケティング基礎

ローカルフードシステム論 / 食料・農業・農村政策

森林保全・利用論

グリーンアート

芸術表現論 / 地域活性化とビジネス / 地域企画論

新規開拓 / 畜産・農業・防災・デザイン / 安全衛生工学

社会問題研究 / 災害復興と地域活性化

ワーキングデザイン / 食品マーケティング基礎

ローカルフードシステム論 / 食料・農業・農村政策

森林保全・利用論

グリーンアート

芸術表現論 / 地域活性化とビジネス / 地域企画論

新規開拓 / 畜産・農業・防災・デザイン / 安全衛生工学

社会問題研究 / 災害復興と地域活性化

ワーキングデザイン / 食品マーケティング基礎

ローカルフードシステム論 / 食料・農業・農村政策

森林保全・利用論

グリーンアート

芸術表現論 / 地域活性化とビジネス / 地域企画論

新規開拓 / 畜産・農業・防災・デザイン / 安全衛生工学

社会問題研究 / 災害復興と地域活性化

ワーキングデザイン / 食品マーケティング基礎

ローカルフードシステム論 / 食料・農業・農村政策

森林保全・利用論

グリーンアート

芸術表現論 / 地域活性化とビジネス / 地域企画論

新規開拓 / 畜産・農業・防災・デザイン / 安全衛生工学

社会問題研究 / 災害復興と地域活性化

ワーキングデザイン / 食品マーケティング基礎

ローカルフードシステム論 / 食料・農業・農村政策

森林保全・利用論

グリーンアート

芸術表現論 / 地域活性化とビジネス / 地域企画論

新規開拓 / 畜産・農業・防災・デザイン / 安全衛生工学

社会問題研究 / 災害復興と地域活性化

ワーキングデザイン / 食品マーケティング基礎

ローカルフードシステム論 / 食料・農業・農村政策

森林保全・利用論

グリーンアート

芸術表現論 / 地域活性化とビジネス / 地域企画論

新規開拓 / 畜産・農業・防災・デザイン / 安全衛生工学

社会問題研究 / 災害復興と地域活性化

ワーキングデザイン / 食品マーケティング基礎

ローカルフードシステム論 / 食料・農業・農村政策

森林保全・利用論

グリーンアート

芸術表現論 / 地域活性化とビジネス / 地域企画論

新規開拓 / 畜産・農業・防災・デザイン / 安全衛生工学

社会問題研究 / 災害復興と地域活性化

ワーキングデザイン / 食品マーケティング基礎

ローカルフードシステム論 / 食料・農業・農村政策

森林保全・利用論

グリーンアート

芸術表現論 / 地域活性化とビジネス / 地域企画論

新規開拓 / 畜産・農業・防災・デザイン / 安全衛生工学

社会問題研究 / 災害復興と地域活性化

ワーキングデザイン / 食品マーケティング基礎

ローカルフードシステム論 / 食料・農業・農村政策

森林保全・利用論

グリーンアート

芸術表現論 / 地域活性化とビジネス / 地域企画論

新規開拓 / 畜産・農業・防災・デザイン / 安全衛生工学

社会問題研究 / 災害復興と地域活性化

ワーキングデザイン / 食品マーケティング基礎

ローカルフードシステム論 / 食料・農業・農村政策

森林保全・利用論

グリーンアート

芸術表現論 / 地域活性化とビジネス / 地域企画論

新規開拓 / 畜産・農業・防災・デザイン / 安全衛生工学

社会問題研究 / 災害復興と地域活性化

ワーキングデザイン / 食品マーケティング基礎

ローカルフードシステム論 / 食料・農業・農村政策

森林保全・利用論

グリーンアート

芸術表現論 / 地域活性化とビジネス / 地域企画論

新規開拓 / 畜産・農業・防災・デザイン / 安全衛生工学

社会問題研究 / 災害復興と地域活性化

ワーキングデザイン / 食品マーケティング基礎

ローカルフードシステム論 / 食料・農業・農村政策

森林保全・利用論

グリーンアート

芸術表現論 / 地域活性化とビジネス / 地域企画論

新規開拓 / 畜産・農業・防災・デザイン / 安全衛生工学

社会問題研究 / 災害復興と地域活性化

ワーキングデザイン / 食品マーケティング基礎

ローカルフードシステム論 / 食料・農業・農村政策

森林保全・利用論

グリーンアート

芸術表現論 / 地域活性化とビジネス / 地域企画論

新規開拓 / 畜産・農業・防災・デザイン / 安全衛生工学

社会問題研究 / 災害復興と地域活性化

ワーキングデザイン / 食品マーケティング基礎

ローカルフードシステム論 / 食料・農業・農村政策

森林保全・利用論

グリーンアート

芸術表現論 / 地域活性化とビジネス / 地域企画論

新規開拓 / 畜産・農業・防災・デザイン / 安全衛生工学

社会問題研究 / 災害復興と地域活性化

ワーキングデザイン / 食品マーケティング基礎

ローカルフードシステム論 / 食料・農業・農村政策

森林保全・利用論

グリーンアート

芸術表現論 / 地域活性化とビジネス / 地域企画論

新規開拓 / 畜産・農業・防災・デザイン / 安全衛生工学

社会問題研究 / 災害復興と地域活性化

ワーキングデザイン / 食品マーケティング基礎

ローカルフードシステム論 / 食料・農業・農村政策

森林保全・利用論

グリーンアート

芸術表現論 / 地域活性化とビジネス / 地域企画論

新規開拓 / 畜産・農業・防災・デザイン / 安全衛生工学

社会問題研究 / 災害復興と地域活性化

ワーキングデザイン / 食品マーケティング基礎

ローカルフードシステム論 / 食料・農業・農村政策

森林保全・利用論

グリーンアート

芸術表現論 / 地域活性化とビジネス / 地域企画論

新規開拓 / 畜産・農業・防災・デザイン / 安全衛生工学

社会問題研究 / 災害復興と地域活性化

ワーキングデザイン / 食品マーケティング基礎

ローカルフードシステム論 / 食料・農業・農村政策

森林保全・利用論

グリーンアート

芸術表現論 / 地域活性化とビジネス / 地域企画論

新規開拓 / 畜産・農業・防災・デザイン / 安全衛生工学

社会問題研究 / 災害復興と地域活性化

ワーキングデザイン / 食品マーケティング基礎

ローカルフードシステム論 / 食料・農業・農村政策

森林保全・利用論

グリーンアート

芸術表現論 / 地域活性化とビジネス / 地域企画論

新規開拓 / 畜産・農業・防災・デザイン / 安全衛生工学

社会問題研究 / 災害復興と地域活性化

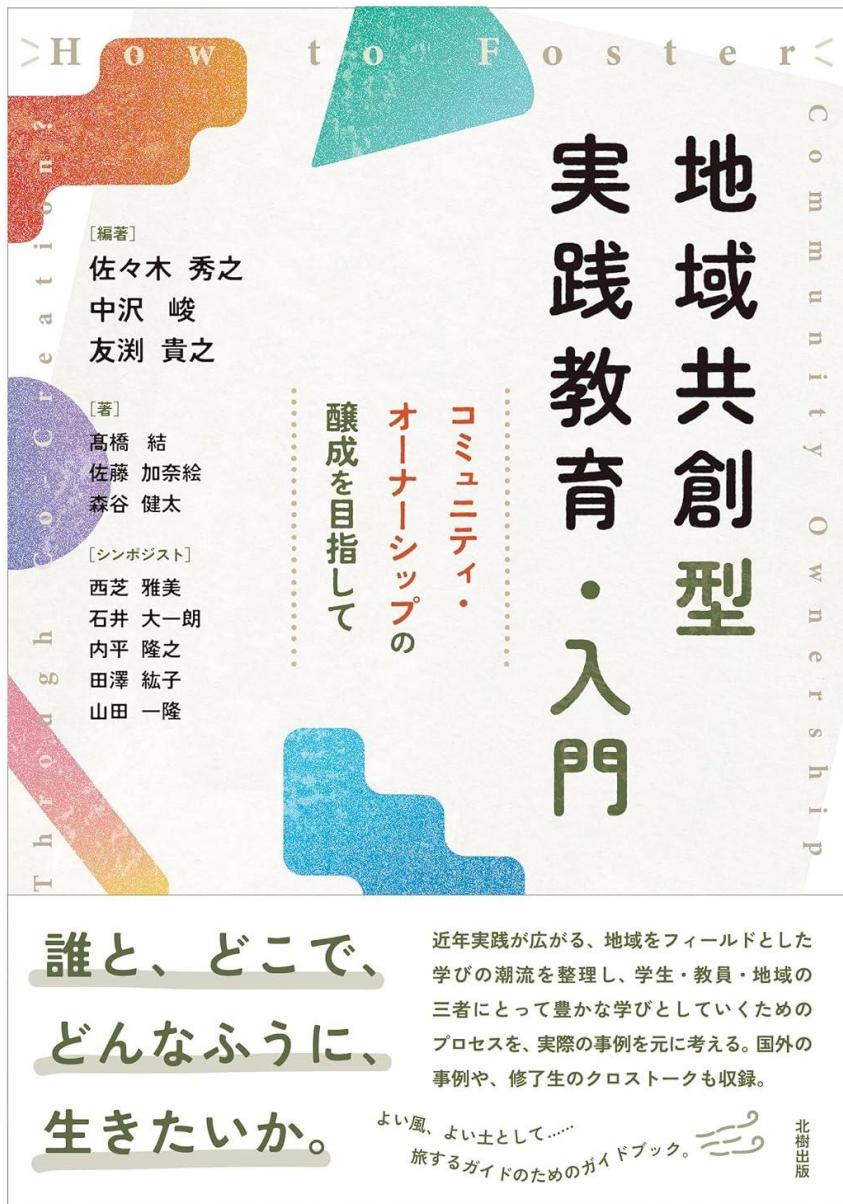
ワーキングデザイン / 食品マーケティング基礎

ローカルフードシステム論 / 食料・農業・農村政策

森林保全・利用論

グ

方法論、学生による地域プロジェクトの実施手法



2024/8/5

地域共創型実践教育・入門： コミュニティ・オーナーシップの 醸成を目指して

第1部 地域における学びと共創の現在地

- 第1章 社会と接続する学びの潮流
- 第2章 地域志向の学修プログラムの展開
- 第3章 コミュニティ・オーナーシップ

第2部 地域共創型教育実践を可視化する

- 第4章 地域共創型教育の実践モデル
- 第5章 講義の様子
- 第6章 事例報告
 - 三陸沿岸部の魅力の発見と発信(宮城県名取市)
 - 地域資源である「ひと」との交流と魅力の発信(宮城県石巻市)
 - 震災を経験していない子どもたちへの防災教育(宮城県松島町)
 - 映像を用いた地域のPR(宮城県亘理町)
 - フードロス問題の普及啓発に向けた情報発信(宮城県富谷市)

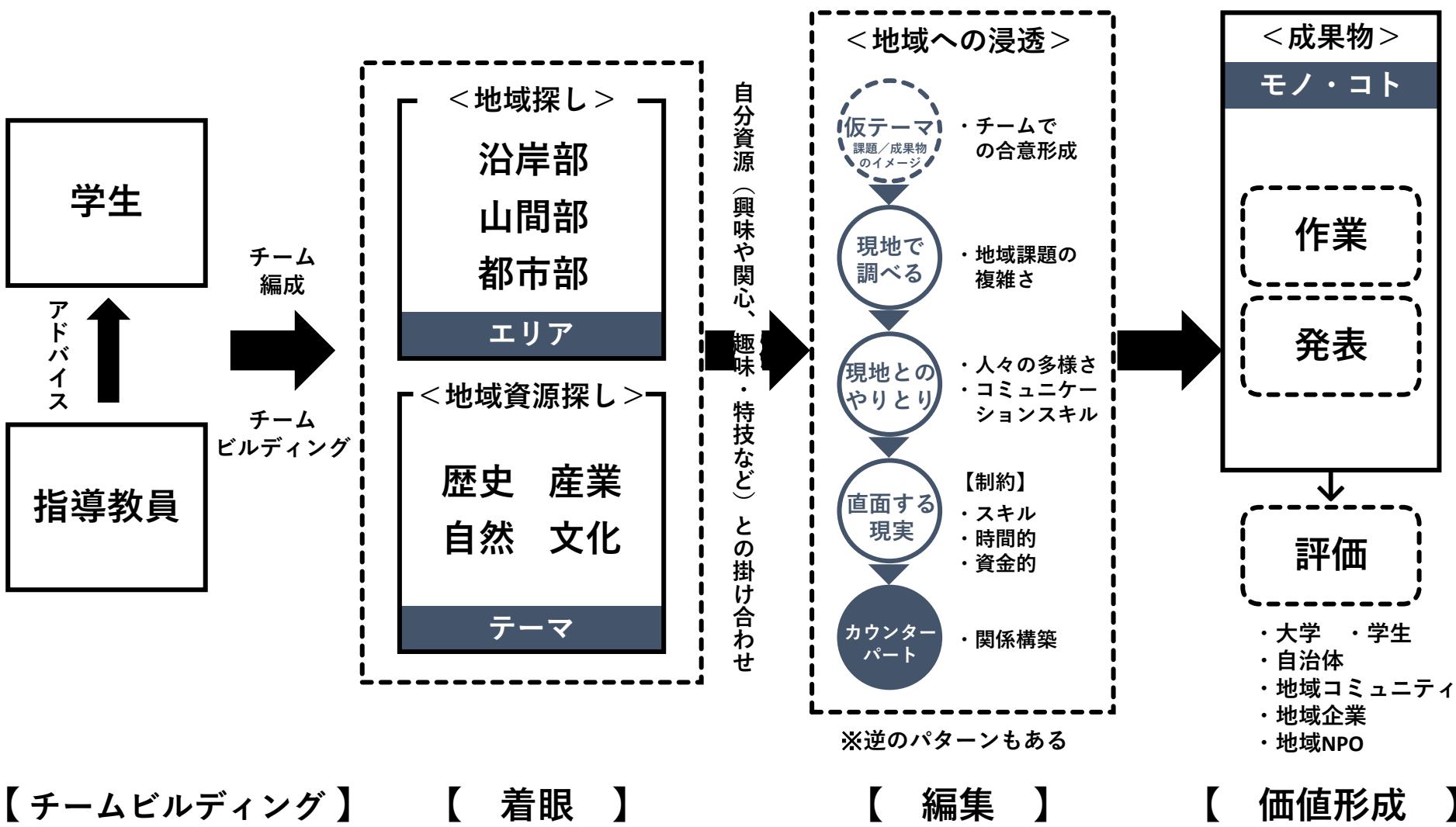
第3部 地域共創型実践教育のビジョンを探る

- 1 各大学での地域における学修の取り組み
- 2 地域との連携や関係性づくりの捉え方
- 3 地域に向き合う気持ちの育み方
- 4 地域と学生とのチームビルディング
- 5 これからの地域共創型実践教育の課題と展望

●修了生クロストーク

CPプログラムでの学びについて/CPプログラムと現在の仕事とのつながり/
後輩に向けて

参考資料、地域プロジェクト・概念図



宮城大学での取り組みを概観すると、

- 地域への関心の高まりと学修の展開
 - ・大学や高校でのPBL・CBL、探究学習
- 地域共生社会の担い手を志向する若者は確実に増えてくる
- ある程度の方法論は必要
 - ・多様なステークホルダーや複雑な地域課題をコーディネーションすることの難しさ

「協働」の定義

アメリカ・インディアナ大学
ヴィンセント・オストロム
が提示した概念（1977）

写真：ヴィンセント・オストロムとエリノア・オストロム
(2009年、女性初のノーベル経済学賞を受賞)



コ・プロダクション (co-production)

Co（共同・協力・協働・協調等）とProduction
(ある価値を有する財やサービスをもたらすため
の活動、ないしその成果・結果) を結合させた造語

「協働」の定義

荒木昭次郎による「協働」の定義①

地域住民と自治体職員とが、心を合わせ、力を合わせ、助け合って、地域住民の福祉の向上に有用であると自治体政府が住民の意思に基づいて判断した公共的性質をもつ財やサービスを生産し、供給していく活動体系

※荒木は日本における「協働」概念の提唱者として知られる。

引用：荒木昭次郎（1990）『参加と協働－新しい市民＝行政関係の創造』ぎょうせい

「協働」の定義

荒木の協働概念に対する懸念

→公私の協働が公私の支配関係に転化してしまう危険性が少なくない

代表的なものとして、

西尾勝（2006）「参加論から協働論へ：住民自治の歴史を回顧する」
『地域政策研究』(35), p.9 を紹介している。

【 ポイント 】

アメリカにおいて、コ・プロダクションの概念が実際には浸透しなかったのに対して、日本では「協働」がブームになる。

そのため、**日本独自の協働論が展開されていった。**

そこでの議論は、**行政と市民、行政とNPOの関係性、とりわけ対等性**についてであった。

「協働」の定義

荒木昭次郎による「協働」の定義②

異なる複数の主体が互いに共有可能な目標を設定し、その目標を達成していくために、各主体が対等な立場にたって自主・自律的に相互交流しあい、单一主体で取り組むよりもより効率的に、そして相乗効果的に目標を達成していくことが出来る手段

引用：荒木昭次郎（2012）『協働型自治行政の理念と実際』敬文堂

「共創」とは？

共創 (Co-Creation)

「企業が、様々なステークホルダーと協働して共に新たな価値を創造する」という概念。2004年に、米ミシガン大学ビジネススクール教授であるC.K.プラハラード氏とベンカト・ラマスワミ氏が、共著『The Future of Competition: Co-Creating Unique Value With Customers（邦訳：価値共創の未来へ-顧客と企業のCo-Creation）』で提起したとされる。

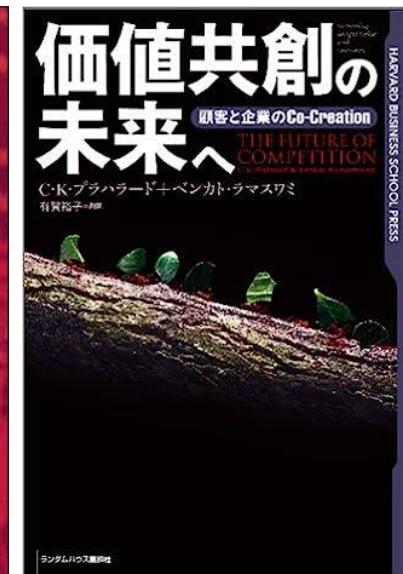
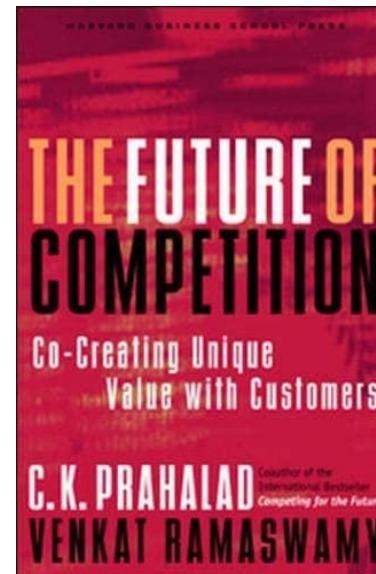
(引用・参考) 斎藤昌義 (2017) 『Hitachi IoT Platform Magazine』「事業開発に「共創」の考え方を取り入れるには」,
<https://www.hitachi.co.jp/products/it/it-pf/mag/bba/39/index.html> (2023/07/11最終閲覧)



C.K. プラハラード氏
(C.K. Prahalad)



ベンカト・ラマスワミ氏
(Venkatram Ramaswamy)



(写真) ミシガン大学 ロス・スクール・オブ・ビジネス webサイト,

<https://michiganross.umich.edu/faculty-research/institutes-centers-initiatives/india-initiatives/ck-prahalad-initiative/bio>, 18

<https://michiganross.umich.edu/faculty-research/faculty/venkatram-ramaswamy>より引用 (2023/07/11最終閲覧)

「共生」とは？

辞書の定義

広辞苑

新明解 国語辞典

【広辞苑「共生・共棲】

- ①ともに所を同じくして生活すること。
- ②[生] 異種の生物が行動的・生理的な結びつきをもち、一所に生活している状態。相利共生と片利共生に分けられる。寄生も共生の一形態とすることがある。

【新明解 国語辞典 「共生】

- ①[共(棲)] (マメと根瘤バクテリアのように)二種の違った生物が一緒にすむこと。
- ②生あるものは、互いにその存在を認め合って、ともに生きるべきこと。
「宗教上の対立を超えて—する／自然と—してきた先住民族／—化 [→ノーマライゼーション]」

引用：「広辞苑 第7版」 p.763

「新明解 国語辞典 第八版」 p.387

政策を俯瞰する

(一般社団法人 人とまちづくり研究所 報告書)

図表 4-6 各省庁の問題意識と施策



注：事象（外線）は地球規模の課題（青色）と我が国固有の課題（灰色）で色分けしている。

出所：厚生労働省（2019）、内閣府（2019）、国土交通省（2014）、総務省（2017）、環境省（2017b）、環境省（2018）、環境省（2019）、農林水産省（2019）、文部科学省（2012）より大村作成

（引用）一般社団法人 人とまちづくり研究所（2020）「地域共生社会の実現に向けた政策のあり方及び事業展開に関する国際比較調査事業報告書」（令和元年度厚生労働省社会福祉推進事業報告書），p.121より，<https://hitomachi-lab.com/pdf/pdf04.pdf>（2022/12/04最終閲覧）

目指す社会像と多様な政策の関連

地域共生社会

制度・分野ごとの『縦割り』や「支え手」「受け手」という関係を超えて、地域住民や地域の多様な主体が『我が事』として参画し、人と人、人と資源が世代や分野を超えて『丸ごと』つながることで、住民一人ひとりの暮らしと生きがい、地域をともに創っていく社会

地域循環共生圏

地域資源を活用して環境・経済・社会の統合的向上を実現する事業を生み出し続けるとともに、例えば都市と農村のように地域の個性を活かして地域同士で支え合うネットワークを形成していくという「自立・分散型社会」を示す考え方

国土グランドデザイン

2050年を目指し、ICTにより、実物空間と知識・情報空間を融合した新しい集積を形成し、人々の暮らしをはじめ、社会経済活動の利便性等を大幅に向上させる。また、「コンパクト+ネットワーク」により、多様な主体が連携し、大小多数の新しい集積が重層的に重なった国土を形成する。

地方創生が目指す社会

少子高齢化の進展に的確に対応し、人口の減少に歯止めをかけるとともに、東京圏への人口の過度の集中を是正し、それぞれの地域で住みよい環境を確保して、将来にわたって活力ある日本社会を維持していく

厚生労働省：地域共生社会

文部科学省：
地域共生社会の実現に向けて
(インクルーシブ教育システムの構築)

農林水産省：農福連携

環境省：
地域循環共生圏、ESG推進

国土交通省：
コンパクト・プラス・ネットワーク

内閣府：地方創生

総務省：
地域自治組織のあり方に関する研究会

地域共生社会

【地域共生社会（厚生労働省）の定義】

2016年6月に閣議決定した「ニッポン一億総活躍プラン」において、地域共生社会の実現が盛り込まれる。

2016年7月に厚生労働省が設置した

『「我が事・丸ごと」地域共生社会実現本部』において、

「制度・分野ごとの『縦割り』や「支え手」「受け手」という関係を超えて、地域住民や地域の多様な主体が『我が事』として参画し、人と人、人と資源が世代や分野を超えて『丸ごと』つながることで、住民一人ひとりの暮らしと生きがい、地域をともに創っていく社会」を目指すもの。

として定義される。

地域共生社会の実現に向けて（改革の骨格）

改革の骨格

地域課題の解決力の強化

- 住民相互の支え合い機能を強化、公的支援と協働して、地域課題の解決を試みる体制を整備【**29年制度改正**】
- 複合課題に対応する包括的相談支援体制の構築【**29年制度改正**】
- 地域福祉計画の充実【**29年制度改正**】

「地域共生社会」の実現

- 多様な担い手の育成・参画、民間資金活用の推進、多様な就労・社会参加の場の整備
- 社会保障の枠を超えて、地域資源（耕作放棄地、環境保全など）と丸ごとつながることで地域に「循環」を生み出す、先進的取組を支援

地域丸ごとのつながりの強化

地域を基盤とする包括的支援の強化

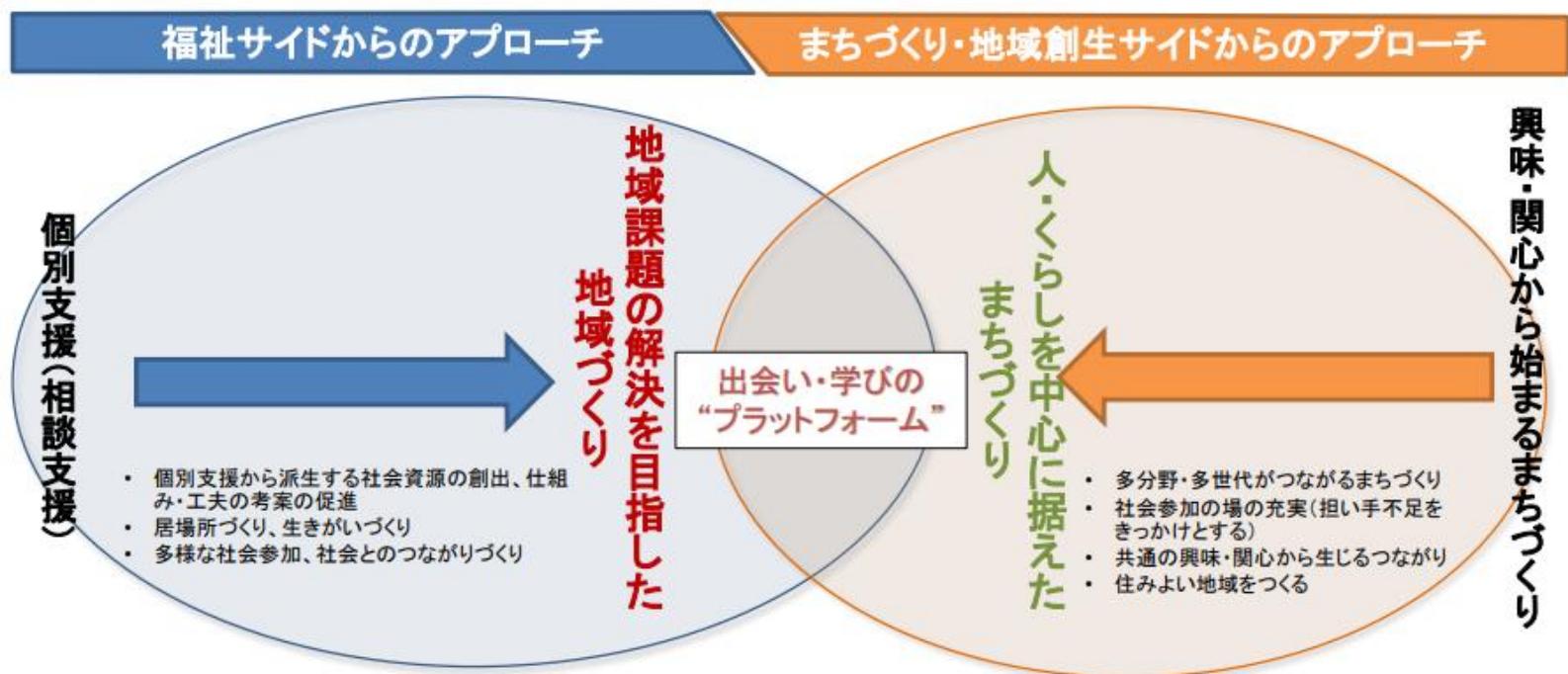
- 地域包括ケアの理念の普遍化：高齢者だけでなく、生活上の困難を抱える方への包括的支援体制の構築
- 共生型サービスの創設【**29年制度改正・30年報酬改定**】
- 市町村の地域保健の推進機能の強化、保健福祉横断的な包括的支援のあり方の検討

専門人材の機能強化・最大活用

- 多様な担い手の育成・参画、**民間資金活用の推進**、**多様な就労・社会参加の場の整備**
- 社会保障の枠を超えて、**地域資源**（耕作放棄地、環境保全など）とまるごとつながることで**地域に「循環」を生み出す**、**先進的取組を支援**

地域共生社会の実現に向けたアプローチ

福祉（個別支援・相談支援）のみならず、
まちづくりや地方創生といった双方の観点から
多様な主体の参加・協働によって取り組むことが必要。



「実践・地域学 - デジタル時代の地域資源活用」

はじめに

第1部 地域学の潮流

第1章 地域学の展開

第2章 2010年代以降における
地方創生事業の展開

第3章 データでみる地域の現況

第2部 多角的にみる地域資源と その活用（デジタル時代の地域活性）

第4章 地域資源の活用による
地域活性

1 地域資源の概要

2 地域資源の活用フレーム

3 地域資源の活用事例

第5章 地域資源（各論）

1 固定資源

(1) 地域資源特性（地理的条件）

(2) 自然資源（二次的自然資源）

(3) 自然資源（水資源）

(4) 自然資源（環境総体）

(5) 歴史的資源

(6) 文化・社会資源

(7) 人工施設資源

(8) 人的資源（関係資源）

(9) 情報資源

(10) 情報資源

2 流動資源

(1) 特産的資源

(2) 中間的生産物

第3部 トークセッション ：新しい地域学のエッセンス



Coming Soon
2026年7月刊行予定
(北樹出版)

地域資源

中間生産物 自然 文化・社会

経営資源

人 モノ・コト
資金 情報

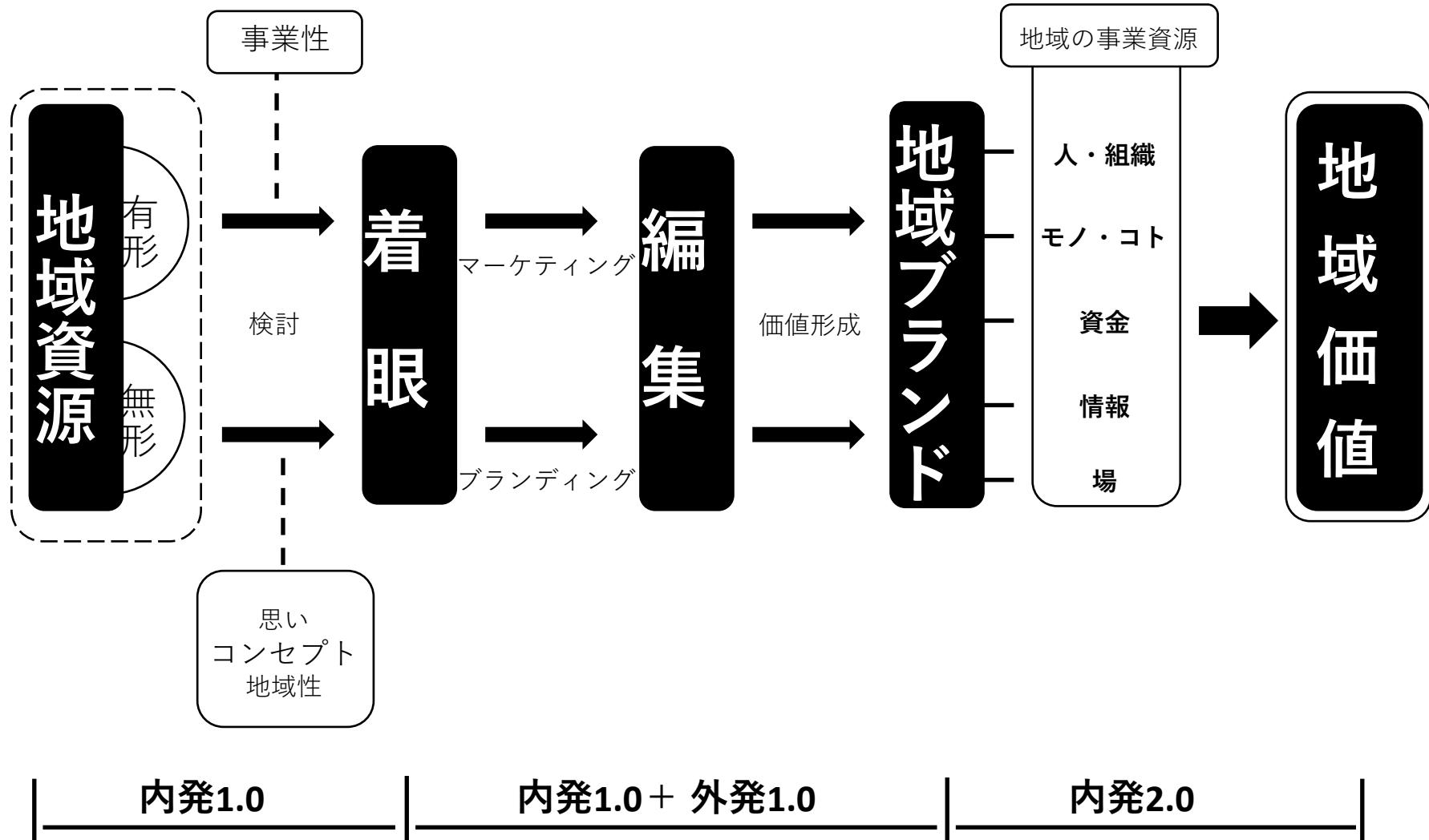
特産 地域資金 地域情報 人工施設
etc..

地域
価
値

地域
形
成

フレームワークの検討②

『実践・地域学』
2026刊行予定に収録





研究室web



ご清聴、ありがとうございました

宮城大学 事業構想学群
佐々木 秀之准教授

市民参加型の
まちづくり

So-gud

地域資源マネジメントを軸にした市民参加型のまちづくり

web記事 →



地域資源に「自分資源」をかけ合わせ、半歩踏み出してみよう

